

アルツハイマー型認知症とは?

認知症疾患はいくつかありますが、アルツハイマー型認知症が最も多い認知症疾患となります。記憶障害（もの忘れ）から始まる場合が多く、他の主な症状としては、「段取りが立てられない」「気候に合った服が選べない」「薬の管理ができない」などがあります。

認知症のもの忘れは加齢によるもの忘れとは違い、体験したこと自体を忘れてしまったり、もの忘れの自覚が無かったりすることが特徴です。

◆「加齢によるもの忘れ」と「認知症によるもの忘れ」の違い（一例）

	加齢によるもの忘れ	認知症によるもの忘れ
体験したこと	一部を忘れる (朝ごはんのメニュー)	全てを忘れている (朝ごはんを食べたこと自体)
もの忘れの自覚	ある	ないことが多い
探し物に対する対応	(自分で)努力して見つけようとする	誰かが盗ったなどと他人のせいにすることがある
日常生活への支障	ない	ある
症状の進行	極めて徐々にしか進行しない	進行する

認知症に気付いた時

「ご家族には何ができる?」

環境整備

ご本人が理解しやすい環境に整える。



- ・扉に表札をつける
- ・トイレまで誘導灯をつける
- など…

ご本人への対応

行動の理由を考えて対等に接する。



- ・買い物メモを持たせる
- ・失くした物は一緒に探して目につく位置に移す
- など…

- 「あれ、何かがおかしい」を見逃さない。
- 早めに医師やケアマネージャー、看護師に相談をする。
- 介護保険などのサービスを積極的に利用する。
- 当人の今できることを知り、それを大切にする。
- 恥じず、隠さず、ネットワークを広げる。
- その人らしい日々を続けられるよう援助する。
- 自分も大切に、介護以外の時間を持つ。

認知症疾患は様々な症状が出ますが、本人の気持ちを理解して受入、対処することでトラブルを事前に避けることもできます。

「ユマニチュード」をご存じですか?

認知症介護では、相手の方との信頼関係を結ぶことが大切です。ただ、認知症の方にはこちらの気持ちがなかなか伝わりにくいという状況があります。こちらの気持ちが伝わらないことには先に進みません。相手に「あなたのことを大切に思っていますよ」ということを理解できるように伝えるために、「見る」「話す」「触れる」「立つ」を用いる、ユマニチュードという方法があります。まるで、魔法のようだと称されることもあるユマニチュードですが、しっかりと理解して実行できるようにするには、それなりの努力が必要です。しかし、ユマニチュードを通じて、その考え方を理解しておくだけでも大きなメリットになることでしょう。

認知症に関しては、適切な相談、助言、指導などが必要になります。

認知症疾患を発症しているご本人、そして、ご家族の安心な生活を送るためにも、私達、メディナス訪問看護ステーションにご相談ください。

メディナスでは、認知症対応に慣れたスタッフも常駐しております。

